

次期ごみ処理施設

ニューズレター

No2 2002.12

次期ごみ処理施設移転先を宇都宮大学と研究

《宇都宮大学との共同研究》次期候補地選定にあたり

《住民参加の資源化・減量化計画》次期ごみ処理施設に役立てる

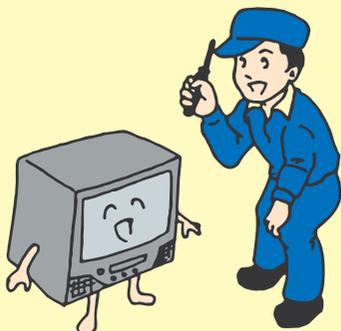
本報告書は最終報告書ではないが、ごみ処理問題に対する基本的な考え方を基に、自然的条件からの適地分析、ごみ処理施設の適地を選択するための分析、そして地域住民との合意を得るうえで必要なプログラム（道筋）の3部門から構成されています。

なお、本報告書は宇都宮大学研究者と塩谷広域圏1市4町及び組合の担当課長による共同研究の成果です。塩谷広域圏1市4町及び組合の担当課長は適地選択に必要なデータの分析・収集・提供を、宇都宮大学研究者は適地選択のデータの分析と報告書の作成を担当しました。

（研究総括責任者・宇都宮大学北島滋副学長）

ゼロ ごみ「0」をめざして、私たちにできること

- 家電製品など、直せるものは直して使しましょう。



（再利用）

- 資源ごみの分別収集に協力しましょう。



（再生利用）

- 食品は買い過ぎず、作り過ぎず、残さないようにしましょう。



（発生抑制）